



集会&
デモ行進

「6・14改憲阻止いばらき総がかり行動」が、3度目の統一行動!

岸田政権の「改憲と暴走」に反対します!

昨年5月31日、「立憲主義を回復し、憲法を阻止するいばらき総がかり実行委員会」が県平和委員会、茨城平和擁護県民会議など11団体で結成されました。

梅雨空の下、6月14日(水)午後5時30分から水戸駅北口において、結成以来3回目となる「総がかり行動」がおこなわれました。集会テーマはズバリ「岸田政権の改憲と暴走に反対します」。

■岸田政権の「憲法破壊路線」に、全力で反対を!

田村武夫「5・3憲法フェスティバル実行委員会」代表は、今年の「憲法フェスティバル」で記念講演をした伊藤真弁護士への訴えが参加者に多くの示唆を与えたと、次のように話しました。

- ・岸田政権が強行している『武力による平和』は論理矛盾で、歴史上その構想は実現されたことがない。「破綻、惨劇にすべて結果が出ている」という伊藤さんの視点。
- ・岸田内閣は、日本へのミサイル攻撃があった場合の国民保護の方策を整備していない。最後の課題だと述べ事実上先送りしている。つまりは、攻撃され甚大な国民犠牲のあることを承知しつつ無策で、『国家の防衛』はあっても、国民の命・財産を守る『防衛』論ではない。
- ・以上のような破綻を取り繕う最後の欺瞞が、『攻められたらどうするのか』である。これこそが国民向けの岸田政権の軍拡推進論。これは『攻められないためにどう外交交渉をすすめたのか』という外交努力のなさを隠す

ためのいいわけ、取り繕いに過ぎない。

田村代表は最後に、「日米軍事同盟による覇権主義を目指し、その先棒を担わんとした軍事国家化を構想する岸田政権の憲法破壊路線に全力で共同して反対していきましょう」と訴えました。

■諦めないこと。訴え続けること!

県平和委員会木村泉代表理事からの「『緊急事態条項』の導入など、平和主義の日本の破壊を許さないカギは、平和と民主主義の徹底を望む、多くの人たちと連帯した私たちの運動です。『諦めないこと。訴え続けること』こそが平和を守ることに繋がります。ともに頑張りましょう」というメッセージを岡野一男茨城労連事務局長が代読しました。

■「9条改悪・東海第二原発再稼働反対」訴えデモ行進!

集会後、水戸市宮町から银杏坂を上り、南町にある広場までデモ行進。約100人が「9条改悪反対」「東海第二原発再稼働反対」などとシュプレヒコールしながら歩きました。

■大軍拡を進める「財源確保法」は成立したが・・・!

6月16日(金)、大軍拡財源に税外収入をあてる「財源確保法」が、参議院本会で自公などの賛成で成立しました。これでは、子ども・子育て予算を倍増する財源などどこにもないでしょう。平和と暮らしを守る政治は「待ったなし」です。



茨城革新懇2023年度・14回定期総会報告

行き詰まった自公政権に代わる政権の実現を!

第41回定期総会が6月13日(火)、県民文化センター本館会議室で開催されました。総会に先立って、安保破棄中央実行委員会常任理事の小泉親司さんが「岸田大軍拡路線の現状と平和のたたかい」と題した記念講演をおこないました。小泉さんは前日まで石垣島の陸上自衛隊施設等を視察していたとのこと。講演は、沖縄及び南西諸島で何が起きているのかに迫りながら、「安保3文書」によって「将来の日本の国のあり方が問われている」と熱を帯びました。

■「軍拡」ではなく、憲法9条を生かす平和国家づくりへ

“戦後の安全保障政策を大転換する”「安保3文書」は、①戦争につながる「敵基地攻撃能力の保有」②「5年間で43兆円」の空前の大軍拡③国民への大増税の3つの要素を明記している。そして米軍と自衛隊の一体化は、さらにすすんで自衛隊が米軍と「融

合」一溶け込んでしまった。アメリカ言いなりの自衛隊になってしまった、と告発。「台湾有事」は絶対に起こさないという世論と運動を広げる。北朝鮮の核問題の解決は、外交ルートを確認する外交努力をすることが求められていると力説しました。

■地域には、政治を変える力が蓄積されている

総会の議長は県平和委員会事務局長の篠原睦さん。議案は、「2022年度活動報告」「2023年度活動方針案」「決算・予算案」「役員選出案」が提案され、それぞれ拍手で承認されました。活動方針は、「地域には営業、医療、介護、教育、子育て、交通、住宅、環境など多岐にわたる分野で、切実な要求を求める住民の声が渦巻き、運動が生まれ、政治を変える力が蓄積されています」と指摘しています。岸田文雄首相は、衆議院解散をチラつかせながら政局をうかがっており、総選挙がいつあってもおかしくない情勢になっています。「総会アピール」では、採択された方針に基づき、「政治を革新」するために奮闘することを宣言しました。新しい事務局長には、県平和委員会代表理事でもある木村泉さんが就任しました。



市民が主催する映画会で積極的に活動している大学生に出会いました。先が見えない不安の中で差別が横行し、戦争、貧困に向かいつつある日本の社会を、なんとかしたいと訴えるその姿勢に共感し寄稿をお願いしました。ぜひ、一緒に力を合わせていきましょう！（編集部）

寄稿

入管法改悪を許さず、戦争止める闘いを

6月3日、つくば市アルスホールにて、入管問題を扱った映画『ワタシたちがニンゲンド!』の上映会を行いました。つくば周辺の市民と筑波大生有志で協力して準備を進め、当日は90名を超える方にご来場いただき、入管法改悪を前にして有意義な上映会にすることができました。当日の発言をベースに、入管について問題意識を共有したいと思います。

入管問題を考えるときに、戦争の問題を語らないわけにはいきません。ウクライナ戦争は終結するどころかますます激化し、台湾海峡をめぐる緊張は高まるばかりです。5月に開かれたG7サミットは、「平和」「民主主義」を騙りながら、ウクライナ戦争の停戦ではなく勝利までの継続を確認し、戦時下のゼレンスキー大統領も招いて更なる軍事支援を約束しました。さらに、中口の核を非難しながらG7の核は「抑止に役立つ」として被爆地・広島から核を正当化しました。

岸田政権は5年間で43兆円という、まさに「異次元」の軍拡で自ら戦争に突き進んでいます。敵基地攻撃能力の保有や沖縄・南西諸島の軍事要塞化も進められています。米戦略国際問題研究所(CSIS)や防衛研究所は、「台湾有事」の際に南西諸島を戦場にして住民を犠牲にしながら「時間を稼ぐ」計画を公然と発表していま

す。「軍隊は住民を守らない」というのがあの地獄の沖縄戦の教訓であり、大軍拡と戦争を絶対に止めなければなりません。

入管は歴史的に特高警察と非常に強いつながりをもっています。入管は第一に外国人を管理し治安を維持するという機能をもって敗戦後から今まで存在してきました。そして、再びの戦争が狙われている今、女性や性的少数者に対する差別など、あらゆる差別と一体で、岸田政権の外国人差別は極限にまで高まっています。難民申請者は犯罪者だという排外主義が煽られ、技能実習生の隷属的労働、朝鮮学校への差別、ウィシュマさんから被收容者の虐殺とその居直りが、国家権力によって行われています。

入管の暴虐を絶対に許すわけにはいきません。入管法の改悪は強行されましたが、この間、全国で労働者民衆の怒りが噴出しました。怒る人々と手を取りあい、あらゆる差別と抑圧に反対する反戦運動をますます燃え上がらせなければなりません。岸田政権を打倒し、強大な差別を生み出しながら戦争に突き進むことでしか成り立たなくなっている社会を根本から変えましょう。団結して頑張ろう！

筑波大生 高木 環

「軍拡NO!女たちの会・茨城」設立!!

平和といのち・生活を何よりも大事にしたい—5/20(土) at つくば

2023年5月20日、「軍拡NO!女たちの会・茨城」設立集会在つくばで開かれ、水戸をはじめ、県内各地から対面で55人、Zoomで8人、計63人の男女が参加して、設立されました。

岸田政権の「敵基地攻撃能力の保持」「軍事力の増強・国防費43兆円増加・増税」などを含む安保関連3文書改訂、それに加えての「原発推進等5法案」を強行通過させるなど、日本を戦争する国に転換させる動きに強い危機感を持ち、これからを生きる子供たちのためにも、平和といのち・生活を何よりも大事にしたい、という強い思いがこの「女たちの会」設立を実現させたのでした。

「軍拡NO!女たちの会・茨城」は、2023年2月に東京で「平和を求め、軍拡を許さない女たちの会」が記者会見を

行い、同様の「女たちの会」を全国で立ちあげるよう呼びかけ、それを受けて、鹿児島、関西地方、北海道などで設立されたことに続くものです。

今後、私たちは、茨城県の各地に「軍拡NO!女たちの会」を立ちあげ、軍拡にも、原発にもNO!を突きつけ、県内の様々な運動と連携し、平和といのち・生活を大事にする社会を目指して活動したいと思っています。

「軍拡NO!女たちの会・茨城」設立集会主催者

